

# ■メキシコでのサンゴ礁の保全・管理会議

2006年10月16～20日、メキシコのユカタン半島東岸に位置するコズメル島において開催された第3回国際熱帯海洋生態系管理シンポジウム(ITMEMS 3)に出席した機会に、メキシコの海中公園を訪れることができたので、その様子を会議の内容と併せて紹介します。



メキシコ湾とコズメル島



開会式における豪Timpson議長

最終日には、全体会議において各分科会の報告がとりまとめられ、「ITMEMS 3」としての決議が行われ、それに引き続いて開催されたICRI<sup>注</sup>総会に送られました。

会議が開催されたコズメルはカリブ海北端の北緯20度付近にあり、熱帯の島の周囲にはサンゴ礁が分布し、付近はメキシコ有数の海洋リゾート地となっています。会議冒頭の記念講演において、地元カンタナルー州カント知事は、メキシコはサンゴ礁における観光で年間2億米ドルの収入をあげているように、サンゴ礁が重要な観光資源であるが、近年の環境悪化によってサンゴ礁の価値が金額換算で385億ドル損失したと報告しました。これはメキシコのGDPの10.2%にあたり、被害は深刻であると、環境保全の重要性を訴えました。なお、メキシコは、27箇所460万haに及ぶ海洋保護区を設定し、海洋環境の保全に努めているとのこと。

## 国際熱帯海洋生態系管理シンポジウム

会議はサンゴ礁の保全と管理を主なテーマとして、研究者、行政担当者、国際機関の職員、NGO等、サンゴ礁保全に関わる幅広い立場の人々が参加して行われたものです。会議は、さまざまなケーススタディの発表を通して、サンゴ礁の生態系管理に重要となる課題を明らかにするとともに、参加者のネットワークを強化することを目的とするもので、メキシコ国立自然保護区委員会、米国国務省、日本環境省、豪グレートバリアリーフ海中公園局等が中心となって開催されました。45カ国から約300名が参加し、全体会議の後、13の分科会に分かれて熱心な討議が行われました。わが国からは、環境省、大学、財団、NGO等の15名が参加しました。

筆者らは「災害対策とサンゴ礁再生」分科会に参加し、「着床具を用いたサンゴ礁再生」と題して、沖縄の石西礁湖における一連の調査、工事、モニタリングについての口頭及びポスター発表を行いました。発表に対して、移植コストや生残率に関する質問などがあり、また、途上国での再生については国際的に資金の手当てを確保する努力が重要であるとの意見も出されました。なお、サンゴ礁再生については、無原則な人工構造物投入についての懸念が示され、それらと着床具との違いについて、今後十分な説明を行う必要があると感じました。

## 海中公園について

コズメル島周辺にも海中公園(海洋保護区)があって、ダイビングやシュノーケリングのツアー・ボートが数多く運航され、観光客でにぎわっていました。ツアー参加者は公園利用料として1人2米ドルを船上で徴収され、それを証明するバンドを手首に巻いて海へ潜ります。利用料は国立自然保護区委員会に納められ、保護区の保全に使用されるそうです。海水は澄み切っており、海底にはカリブ海特有のヤギ類(八放サンゴの仲間)が繁茂し、多くの魚類が群泳する海中景観が見られました。

注) ICRI: 国際的なサンゴ礁保全の枠組みである「国際サンゴ礁イニシアチブ」の略。シンポジウムは、ICRIとの密接な連携のうえに進められた。